

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2990300085		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド倶楽部郡山(グループホーム)		
所在地	奈良県大和郡山市外川町72-1		
自己評価作成日	平成26年9月24日	評価結果市町村受理日	

**基本情報リンク先**

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成26年10月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

スーパーや医療モールが徒歩で行ける位置にあり、日常生活の継続が行いやすく、安心が持てる環境です。住宅地からは、少し離れた所にある為、月に1回以上は外出を企画し地域交流を行っています。家庭菜園にも力を入れており、四季折々の採れたての野菜を使った料理を食卓に並べています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

安心、尊厳、連携を職員相互の理念にして介護のレベルアップに繋げている。スーパー・マーケット、クリニック・モールが近辺にあり住宅地域と離れているが近隣農園のビニールハウスでイチゴ狩りに招かれたり、中学校の福祉体験学習の受け入れ、幼稚園児との交流等を継続している。家族に対しての意見調査での回答を受け音楽療法、化粧療法、アニマルセラピーなどを導入している。年一回の家族交流会で利用者の日常生活並びに各行事での参加状況をスライドで映写し家族の理解を深めるとともに、職員の日常業務のスキルアップに繋げている。1階、2階の2ユニットの職員交流が効果的に実施されている。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は以下の通りで玄関にも掲示しています。 自分らしい安心した生活をお手伝いします。 入居者様の尊厳を守ります。 地域との連携を努めます。	利用者・家族の安心、尊厳、地域との連携の理念を掲示している。月1回のケア会議でスキルアップに努めている。リーダーはグループホーム着任歴3年で、他施設の経験も活かし率先垂範している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に引き続き6月12日 郡山西幼稚園との交流会 6月17・18・19日片桐中学校体験学習受け入れ	地域包括支援センターの片桐地区担当が関与している片桐中学校の福祉体験学習が継続して行われている。郡山西幼稚園の園児と親しく交流している。近隣農園のビニールハウスでイチゴ狩りを体験させて貰っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時の挨拶は欠かさず行っている。昨年12月13日より第2・4金曜日に認知症カフェをホームの隣のロマン倶楽部でオープンし、地域の方々との交流の場になっている。 7月27日には医療モール内で健康祭を開催し、パ		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、スライドショーを用いて近況報告や事故報告等を行い、一層のサービス改善に繋げる話し合い・連携を深めている。	運営推進会議は自治会、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に1回開催している。会議には外部評価結果などを話し合っている。1年に1回開催される家族交流会で近況報告、サービス改善に関して話し合い、連携を計っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市役所へは、制度の情報や助言を求め、サービスの質の向上の為に連携している。	市の介護福祉課、地域包括支援センターと連携して、認知症学習講座を開催し技術の習得に努めている。認知症サポーター養成講座にスタッフが講師として協力している	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修の段階から研修を行っている。月に1回行うケア会議においても、マニュアルや日常のケアの場面を想定して学習をしている。	表玄関は夜間のみ施錠している。ユニット会議、フロア会議で常に職場研修し言葉遣い、行動の制限、束縛について学習している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、虐待行為は全くない。職員には、虐待についての正しい理解をさせ、教育を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は、外部・内部研修に参加し学んでいる。その内容を説明・教育を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・利用契約書等を文書で示し、理解していただいているか疑問点の有無の確認をしながら説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自分の意志の表現が困難な入居者様に対しても感情が汲み取れる迄の関わりを心掛けている。主にその代弁者である、ご家族様には日頃からご入居様の細かな変化も連絡させて頂き、ご要望をお聞きしている。またケア会議等で議題にし、絶えず話し合う機会を設けている	年に1回開催される家族交流会において、日常の利用者の様子や職員との触れ合いの様子を、スライドで映して見てもらっている。現況が理解でき良い評判を得ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の些細な事であっても、報告・連絡・相談を行っており、職員の性格や考え方を管理者が把握する事で、的確なタイミングで的確なアドバイスをしている。	フロア会議やユニット会議などの連携を円滑にしている。各職員のモチベーションを活かして役割分担をし業務改善につなげている。利用者・家族にボランティアの受け入れに関するアンケートをとり、それを検討して職員の意向を反映させるなど積極的な取組みが見られる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、月1回幹部従業員との会議に参加している。現況を細かく報告・連絡・相談出来る。また常時、介護部統括とのホットラインがあるので、不具合等の発生時には、早急な対応が図れる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・レベルアップ教室等を順次行っている。また認知症介護実践者研修・管理者研修・リーダー研修等を計画的に受けさせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度、事業所等へ訪問し、情報の交換をしている。またフレンド学会への参加時にも情報の交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている内容について、本人のペースで語って頂き、不安の内容をよく理解するよう努めている。利用者勧誘を全面に押し勧めないようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の代弁者としてのお話、ご家族様としての想い、ご要望を傾聴し総合的に理解するよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が、グループホーム利用が適用かどうかを冷静に判断出来るような立場にたって相談者の話を傾聴している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のADLを正確に把握し、その方の生活歴も踏まえて、IADLの支援を行う。ご入居様が介護されるだけの側の方ではない意識を全職員が自覚している。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、健康状態・生活の様子を写真を添えて「一言通信」という形で送付している。また関連の他ユニット（グループホーム）の様子も比較出来る様に「笑顔だより」も送付している。これ以外にも来所時に談話をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食・買い物、整形外科・眼科・皮膚科への通院の支援の他、楽しく社会生活が出来る様努めている。	ボランティア受入れに関する意見調査で、アニマルセラピー犬による癒し訪問並びに男性利用者へのハンドマッサージ、女性利用者への化粧・髪形を整える美容師などが来てくれるのを楽しみに待っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の座席の配置や外出の際のペアリング等を配慮したり、お互いに助け合える機会を提供している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方への面会や、逝去された方のお墓参り、ご家族様にはお手紙や電話で様子を尋ねたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・入居後においても、ご家族から生活歴・習慣・好きな事・苦手な事等の情報を得る様にしている。入居後は特にご本人様の行動や会話等から想いや意向の把握をしている。	個人ファイルに入居前の生活歴、趣味、嗜好などの環境アセスメントの情報を得ている。昔の郡山女学校(現・郡山高校)を見るためのドライブに行ったり、買い物に出掛けたりする。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	些細なお話も聞き逃さず、可能な限り詳しいアセスメントの作成の材料と捉える意識を持って、実行している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が、その方の心身の状態を常に把握し、適切なケアの提供を実践出来る様に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った支援の評価を行っている。その方の状態に適切なケアへの検討をご本人・ご家族の想いを聞いた上で、ケア会議等で話し合って改善している。	介護計画作成責任者が担当者会議でケアプランに対する意見を集約して、3ヶ月ごとに見直し、更に利用者に適切なケアプランを再評価して6ヶ月で更新をしている。趣味、特技、生き甲斐などケア会議で話し合っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施期間を明示し、期間終了時の見直しを行っている。常に新鮮な情報の共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内の法人の関係クリニックから訪問看護を受けられるように支援している。系列の施設等と合同の催しを企画し参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の必要性を考慮し、協力の依頼をしている。 (アニマルセラピー・化粧療法・音楽療法等)		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科・皮膚科・整形外科・心療内科等の受診が必要な場合は、家族に連絡をし、希望があれば受診を行っている。歯科受診は、訪問も手配出来る。	提携医療機関をかかりつけ医として受診する。隣接するクリニック・モールに受診する利用者もいる。かかりつけ医の往診が月2回、適時に歯科医の往診がある。服薬管理を実施し家族に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日定期的な訪問により、介護・看護の連携から双方の気づきを確認しており、ケアに反映している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医と、ご家族を交えて入院先の担当医からの現況や予後話し合い、早期の退院に向けて支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を策定している。ターミナルの状態に近づかれた場合は、カンファレンスを行い、書類を作成し取り組んでいる。往診医は24時間体制で対応してくれる。	サービス提供開始時に重度化対応指針を策定し利用者、家族に対して説明しているが、現在看取りに至る重度化傾向の利用者はいない。有床診療所医師並びに職員との日常的連携を密にしている。	利用者、家族は契約時に重度化対応指針に基づき同意書を提出しているが、将来の方針を決めかねている。職員と共に習得し、理解していく取組みを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人研修の内容にも含めている。対応マニュアルの所在を定位置としている。定期的にシミュレーションを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事務所の壁に災害対策の対応手順を掲示している。年2回避難訓練を行っている。スプリンクラー・消防署直通の電話を設置している。非常時の際の備蓄もしている。	年2回避難誘導の訓練を実施している。災害対応手順を壁に掲示し、他事業所との協力体制が生まれ、職員が消防署の救命講習修了書を取得している。災害に備えて飲料水、米、缶詰の備蓄がある。1階の車椅子利用者は居室からベランダに避難し易くしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人のペースに合わせて声掛けしている。個々の生活習慣や個性を尊重し共感した対応を行っている。	個々の利用者の生活歴を踏まえ、その尊厳を保つように生活習慣や個性を尊重した対応をしている。居室への入室時のノックとか言葉掛けに留意している。プライバシー確保に関する学習を通して言動に留意し対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るような声掛けの仕方に注意している。 (食事の献立の希望・起床時・入浴後の洋服の選択等)		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活での制限を感じられる事な無い様、その人らしさを考えた生活の支援を行っている。入居者優先の支援を徹底している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望を基本にしなが、アドバイスや支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしなが、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスを考えた上で食べやすさ・見た目の工夫をし、入居者の好みを配慮している。一緒に調理や片付けを楽しむ事も重要と認識している。	昼食をメインに栄養バランスをとっており、器に盛り付けた料理がランチョン・マットに映え食材が楽しめ、同席する職員との対話が弾み食事を楽しんでいる。食材に庭で収穫した野菜をつかったり、骨なし加工をした魚を使っている。食後の片付けを手伝っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理等の身体状態を把握し、提供する食品や調理に反映している。水分の摂取は時間を決めずに細めに行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方のADLに応じた、声掛け・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、失禁を減らすように誘導等の支援を行っている。	個々人の排泄パターンを把握し声掛け誘導をしている。使い勝手のよいトイレだが、男性は立った姿勢で排尿するため、汚れが激しいので引率し排泄姿勢の見守りをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝10時のおやつにヨーグルトを召し上がって頂いている。発酵食品も積極的に取り入れている。散歩・毎日の体操等で腸の活動を促進出来る様に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全に楽しんで入って頂けるように、入浴時間や回数に添えるように準備している。同性介助等、プライバシーの保護にも配慮している。	入浴の基本は週3回、同性介助で行っている。入浴剤や各種シャンプーの好みに応じている。介護度5の利用者についてはタイミングをはかり入浴順を調整している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢者という意識の元に、自由に休息も取れるように随時、声掛けや誘導も行っている。日中の生活活動を促し、適度な運動量を確保して、スムーズな入眠と安眠を支援する。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や現病を把握した上での内服薬の内容の勉強をしている。医師の指示通りに服薬して頂けるように、お手伝いし症状の変化等は都度連絡している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話の中から、ご本人様の想いを汲み取り個々にアクティビティを選択している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLに応じて、車椅子使用の方も同様に外気に触れて頂く機会と捉えている。季節によっては、ピクニックや家族とに外出がある。	ADLに応じて外出リクエストに対応している。回転寿司の夕食、お好み焼きや流しそうめんの材料を買いに行ったりしている。入浴を拒む利用者をスーパー銭湯に同行し喜んでもらう等工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している方は、ご自身で管理され、支払い時のみ職員がお手伝いする事もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で出来る方は受話器を手渡し、可能で無い方には、呼び出しをして、受話器を手渡して会話して頂けるようにお手伝いしている。手紙は、便箋や切手を準備し投函のお手伝いをしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内はバリアフリーで家具の配置で自由な移動を支援する工夫をしている。またベランダや家庭菜園に出て、季節に花や野菜等が見えるように、環境を整えている。	スタッフルームから居間、台所、食堂の共用空間全体が見渡せ利用者の様子を把握できる。一対一の対応が必要な利用者について即刻の援助が出来ている。浴室、トイレも清潔で使い心地良く配置されている。廊下から家庭菜園に出ることができ、野菜作りなどを楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りの座席や気の合う方同士の座席の配慮を意識している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしさと安全性を考えた家具の配置をし、馴染みの物をご家族様が持って来られている。また、リビングにはソファやテーブルを置き、思い思いの場所で居心地良く過ごして頂いている。	手すりや家具を伝わって移動できるよう居心地よく配置されている。広い窓からの採光の良い居室に、ベッド等が配置され馴染みのものに囲まれている。最近伴侶を亡くされた利用者の枕元に遺影などがあり、職員は入退室時に拝礼を心掛けている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室・トイレに表札の掲示をしている。トイレ内にも張り紙を掲示している。手すり・家具の配置で自立した歩行を支援している。		